

自保の魅力「サンゴや街並み」

アンケート結果を公表

白保リゾートホテル問題連絡協

白保リゾートホテル問題連絡協議会（山城吉博会長）が17日午後、しらほサンゴ村で記者会見し、7月に実施した観光業利用者への景観アンケート結果を公表した。白保地区の景観を残すよう求められる人が8割以上を占め、同会は「白保地域の景観が観光面で魅力を持つている」と示す結果」と強調。「県、市の景観行政と観光行政にギャップがある」として18日には市長や担当課に対し要望書を提出する。

同アンケートは7月16日に白保地域内のゲストハウス、シユノーケルエコツアーカフェの

約16事業所と白保日曜市（約16事業所と白保日曜市の来場者を対象に実施され、336の有効回答を得た。

同会はアンケート結果への評価として「白保を初めて訪れている人が7割▽開発は最小限、景観を残すようにすべきが8割以上▽再来の条件に「美しいサンゴの海」（64・9%）「街並みや景観」（57・7%）などに注目した。

白保集落から空港までの地域の景観について

12%

82%

- もっと開発した方がいい（0.9%）
- 海沿いの自然の縁を隠さず、超えない高さの開発ならいい（12%）
- 開発は最小限に制限して、今の景観を残すようにするべき（82%）
- わからない（4.5%）
- 無回答（0.9%）

の多様性として保全に取り組む「白保村ゆらてい

く憲章」とその取り組みを観光基本計画および風景計画へ反映・連携させることーの2つを挙げた。

同会の柳田裕行涉外担当は「積極的な観光振興策や観光客増を求めているのではない。住民の持続的な暮らしを求めている」と述べた。アンケート結果は同会HPで公開している。市に要望した後は県にも要望する方針。